

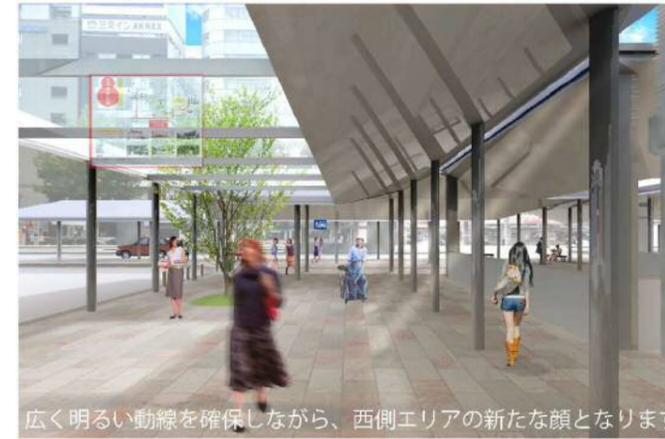
武家屋敷のような屋根が広場全体を巡ります。ヒューマンスケールの街が連なる西側エリアの特性を読み取り、歩いて楽しい広場をつくります



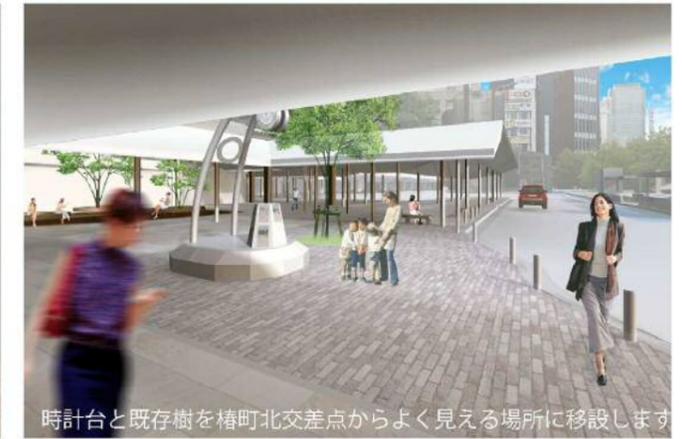
新幹線プラットフォームからも広場の様子が見て取れます



屋根に囲まれた部分はそれぞれ広場になります



広く明るい動線を確保しながら、西側エリアの新たな顔となります



時計台と既存樹を椿町北交差点からよく見える場所に移設します

武家屋敷のような回廊状屋根がつくり出す多様な広場

●武家屋敷のような屋根が連なる駅前広場

戦国時代から連なる名古屋の武家文化を踏まえて、武家屋敷のような屋根が連なる駅前空間をつくります。それぞれの屋根は回廊のような平面計上としており、複数の特徴ある広場を生み出します。名古屋の西側エリアは豊臣秀吉や加藤清正らの生誕地として知られ、彼らにゆかりのある地名や史跡が多く残されています。特に豊臣秀吉について名古屋駅から生誕地の石碑が建つ中村公園までのルートは「太閤秀吉功路」と名付けられており、西側駅前広場がその特性に相応しい出発地点となります。

●ヒューマンスケールでウォーカブルな駅前広場

車交通が主流の名古屋にあって、名古屋西側エリアは駅西銀座通商店街に代表されるように、駅近にありながら歩いて楽しい通りが連なり、ヒューマンスケールの街並みが残されています。そこで、駅前広場においても西側エリアの特質が延長してきたような歩行者に優しいウォーカブルな場とし、椿神明社やリニア駅上部広場へ歩いて廻れるルートをつくります。

●主要動線をシェルターで繋ぎ目的地へと導く

現在の駅前広場の動線の狭さや見通しの悪さを改善しながら、雨のかからないシェルターで主要動線を全て繋ぎ、ストレスなく目的地を目指しながら複数の広場の脇を通り過ぎていく計画とします。回廊状に巡らされた各シェルターについて、屋根同士の連結部には構造的に縁を切るために隙間(ガラススリット)が設けられます。ガラスのスリットから差し込む光は、駅前広場全体の平面構成を浮かび上がらせ、利用者が目指すべき方向を容易に認識手助けとなります。

●回廊状の屋根に囲まれた各広場

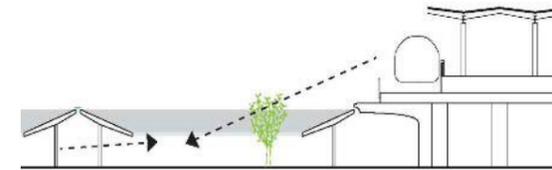
各広場は出来るだけ開放性が高く、また大きく計画し、その周囲を回廊状の屋根で囲むことで、歩行者空間と滞留空間を明快に分節し、日差しや突然の雨を避けるシェードとしても機能します。また、回廊状屋根は、周囲を土木的なスケールの街並みに囲まれる中にありながら、ヒューマンスケールの場所を取り戻す仕掛けにもなり、名古屋駅西側への玄関口としてふさわしいデザインとなります。

●複数の広場×回廊が生み出す多様な使われ方

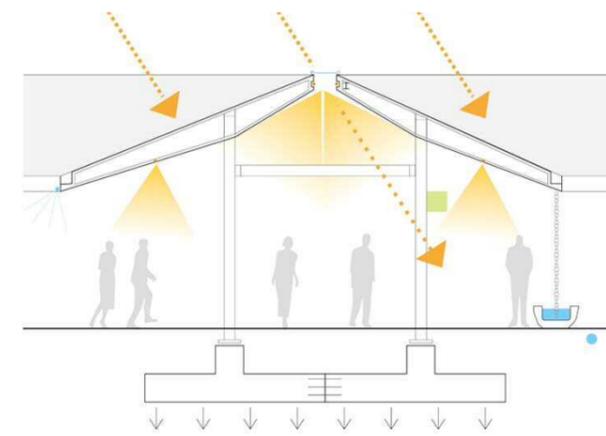
主動線を回廊状の屋根でつないだ上で複数の広場が生まれます。各広場は回廊に囲まれていることから広場の使われ方は回廊部とセットで考えることができ、一方、回廊部分も広場との関係からその性質が決まります。各広場はそれぞれ独自の性格を与えられますが、イベント時など大規模な催しを行う際には隣接する広場同士を一体化させて利用することも想定しています。

●下から見ても上から見ても印象的なデザイン

計画地は新幹線の車窓並びに駅プラットフォームからダイレクトに見えるという大きな特徴があります。そこでグラウンドレベルからだけでなく、駅プラットフォームレベルからも印象的に見えるデザインを意識し、屋根の巡る景観を通して西側エリアの特色を広く発信します。



下から見ても上から見ても広場を見通せるデザイン



断面イメージ



名古屋駅西エリアの情報を発信する広場



新幹線の見える広場

3位：Before Arch 提案書【抜粋】

設計共同体：萩原雅史建築設計事務所、中西ひろむ建築設計事務所
フジタケイ建築設計事務所、川上聡建築設計事務所

※本提案書はプロポーザルを実施にあたり提出されたものであり、本市の計画案として決定したものではありません。計画案は関係者との会議等をふまえ、決定する予定です。